

[ICEA分科会企画]

インパクトは企業価値を高めるのか

[Impact-Driven Corporate Value Enhancement Alliance Working Group (ICEA) Session] Does Impact Drive Corporate Value? — Debating the ICEA Working Group's Four-Factor Hypothesis



田原 純香
Sumika Tabara
事務局長代理
インパクト志向金融宣言
MODERATOR



荻原 亘
Wataru Ogihara
代表取締役社長 兼 CEO
三井住友DSアセットマネジメント



新井 健資
Katsutoshi Arai
代表取締役社長
カチタス



高橋 秀仁
Hidehito Takahashi
代表取締役社長
レゾナック・ホールディングス



鈴木 善博
Yoshihiro Suzuki
名誉取締役会会長兼取締役
Allegro MicroSystems

インパクト志向企業価値向上アライアンス

Impact-Driven Corporate Value Enhancement Alliance

(ICEA)

インパクトは企業価値を高めるのか

インパクト志向企業価値向上アライアンス（ICEA）の目的

[誰が]

インパクト志向のある複数投資家が、インパクトを創出する上場企業とともに、

[目的は]

インパクト創出を通じて企業価値向上に取り組む上場企業に対する投資（債券を含む）を推進するために、

[何を]

①インパクト創出を起点とした企業の価値創造プロセスを理解・整理し、②創出インパクトと企業価値向上の関係性（因果・相関）を分析し、③投資家がかかる企業を支援するために必要な情報開示の在り方を示す。

そもそも、何を持って「インパクト創出」というのか

インパクトに対する捉え方の違い①

(経営における位置付けの違い)

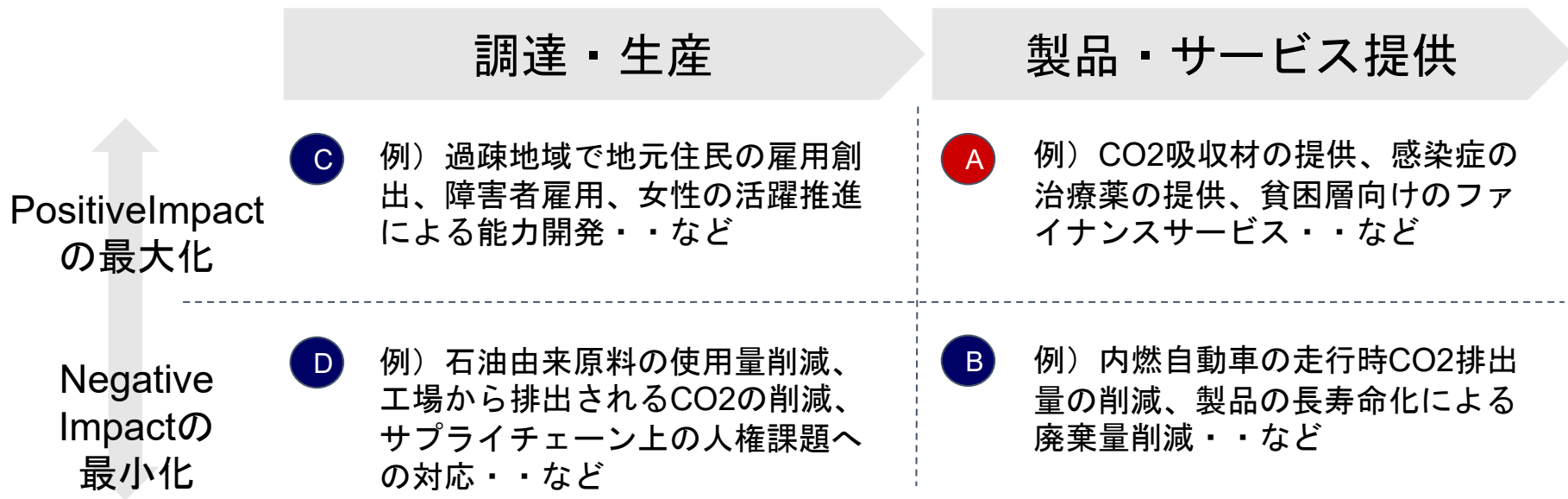
「目的」としての
インパクト創出

目的は**社会課題の解決によるインパクトの創出**
特定の社会課題を解決するために、「ビジネス」という手段を使う

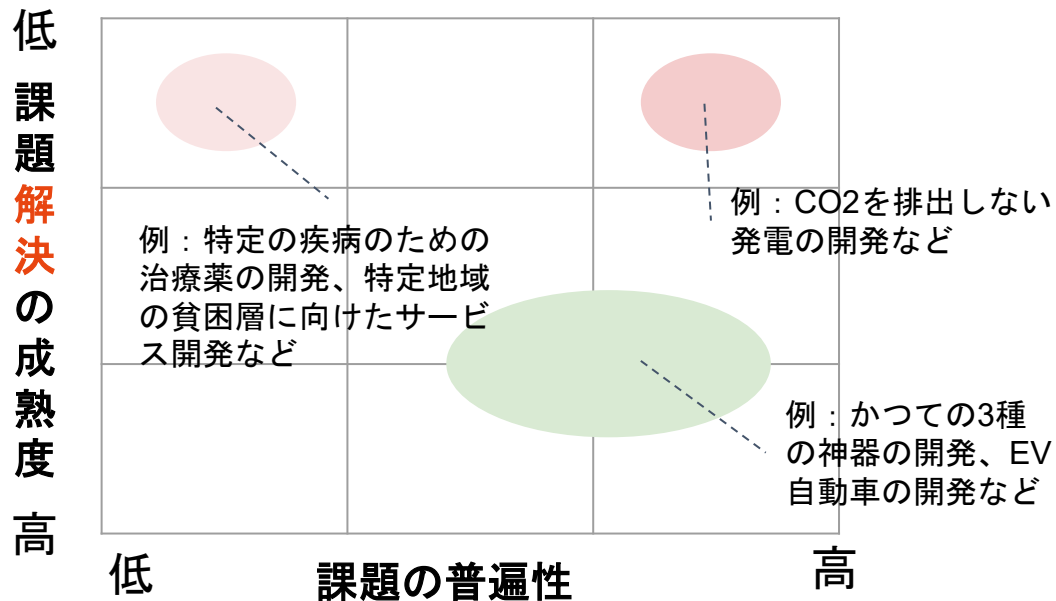
「手段」としての
インパクト創出

目的は**企業価値の向上**
企業価値向上を実現するために、「インパクト」の視点を取り入れる

インパクトに対する捉え方の違い② (インパクト創出の起点の違い)



インパクトに対する捉え方の違い③ (対峙する社会課題の違い)



参考：「インパクト」の定義

インパクト・マネジメント・プロジェクト（IMP）による定義

- インパクトとは、組織によって引き起こされるアウトカムの変化
- インパクトには、ポジティブなものとネガティブなもの、意図的なものと意図的でないものがある
- アウトカムとは、ある出来事や行動の結果として生じる、ある集団の人々のWell-beingの水準、または自然環境の状態のこと

内閣府による「社会的インパクト評価の推進に向けて—社会的課題解決に向けた社会的インパクト評価の基本的概念と今後の対応策について—」（平成 28 年 3 月）

- 短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカムのこと

一言にインパクトと言っても、解釈や創出のアプローチは様々。

インパクトを志向する企業の全てが、
等しく企業価値向上を図ることができると
結論づけることは現実的ではないのでは？

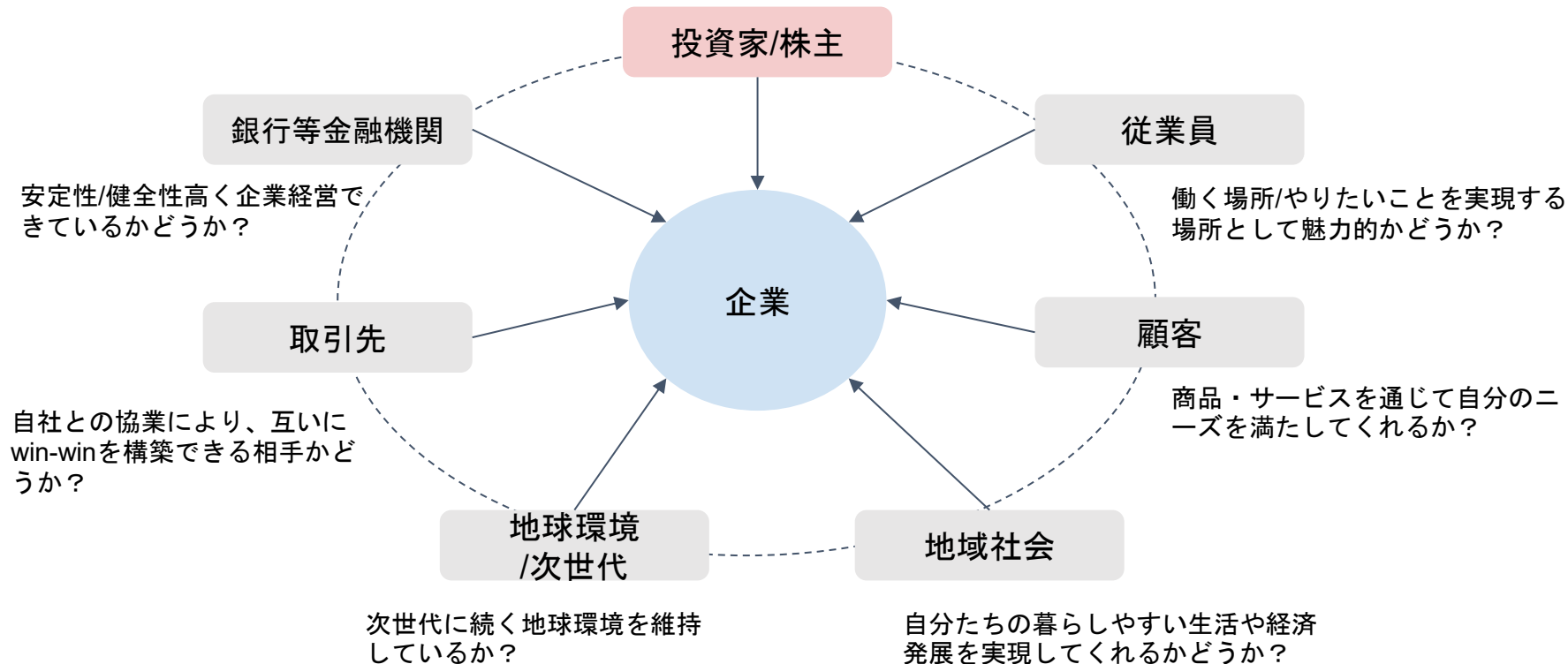


どんな企業であれば、
インパクトの創出を通じて企業価値向上を実現しうるのか？

そもそも、「企業価値」とは

投資家の「企業価値」に対する関心事≠その他のステークホルダーの関心事 (企業価値は一様ではない)

投資した金額に対して期待した
リターンを得られるかどうか？



従来からある「株主資本主義」と「ステークホルダー主義」

株主資本主義

ステークホルダー主義

これらは、二項対立ではない
→時間軸の差と捉えることもできる

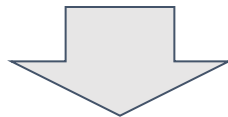
株主資本主義

短期/期間限定的な視野からの利潤最大化

ステークホルダー主義

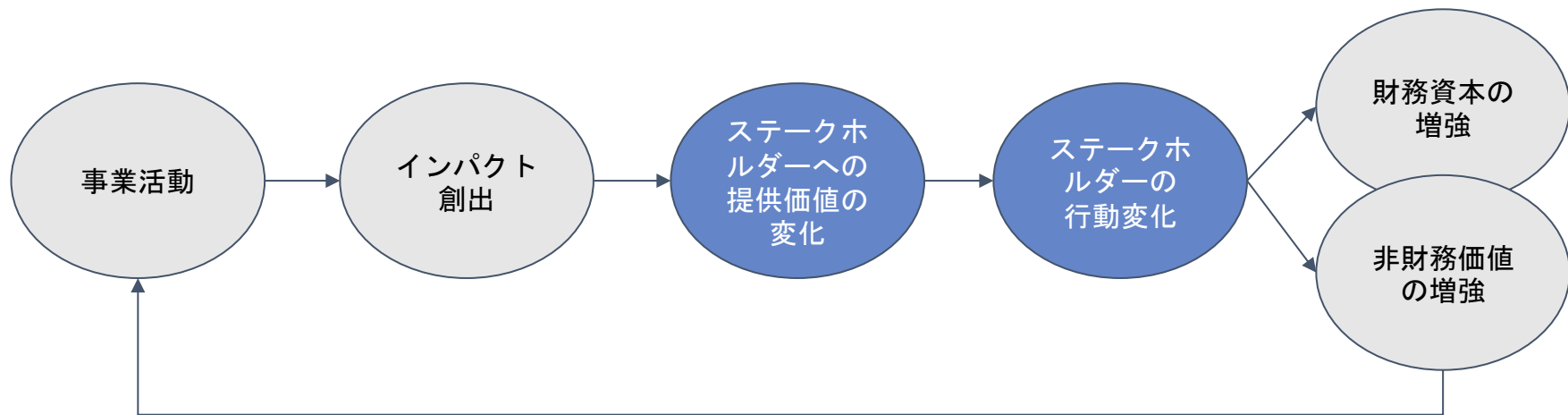
長期的な視野からの利潤最大化

しかし企業は、「長期的な視点」からの投資家だけを選ぶことはできない
むしろ、最適解ではない（長期投資家は流動性も必要としている）



短期/期間限定的視点と長期視点、両者の期待値ギャップを理解した上で
情報開示・対話が求められる

すなわち、事業活動を通じて創出したインパクトが、どのようにステークホルダーの行動変化を起こし、それが企業価値に繋がっているのかを示すことが重要では？



ステークホルダーへの
価値提供の変化

インパクト創出 → 企業価値向上

これを実現させるために
必要な要件

↓
4要素 (ICEAの仮説)

インパクトを軸に企業価値向上を実現するための4要素

1

新規市場の創出/TAMの拡大可能性

2

革新性

3

ステークホルダーの共感を価値に変える力

4

レジリエンスな経営基盤

インパクトを軸に企業価値向上を実現するための4要素

1

新規市場の創出/TAMの拡大可能性

- 解決を意図する社会課題に対する未充足ニーズのギャップが存在することが定量的に示されており、自社の強みを活かして参入することで、新たな市場を形成できる可能性がある。
- あるいはその社会課題解決のために構築した技術やノウハウを活用して更なる市場拡大を見込める可能性がある

インパクトを軸に企業価値向上を実現するための4要素

2

革新性

- 革新的な技術・ノウハウや、模倣困難なバリューチェーンを保有し、**コスト効率化、あるいは高付加価値化**により、競争力のある収益性が確立できている
- また、それらの優位性（形式的・暗黙的な非財務資本）がアセットとして蓄積し、継続的にマネジメントされている

インパクトを軸に企業価値向上を実現するための4要素

3

ステークホルダーの共感を価値に変える力

- 自社の社会的価値に対するステークホルダーの共感を醸成し、行動変容を起こすための取り組みを継続的に実施している
 - [顧客/取引先]商品やサービスが他社と比べてより選ばれやすくなる
 - [社員]採用においてより人材を集めやすくなる、人材の流出を防げる
 - [研究機関など]研究機関からのデータや協力が得られやすくなり課題解決に結びつく商品開発につながる
 - [社会]社会からの信頼が高まることで、様々な交渉やビジネスの摩擦が軽減される

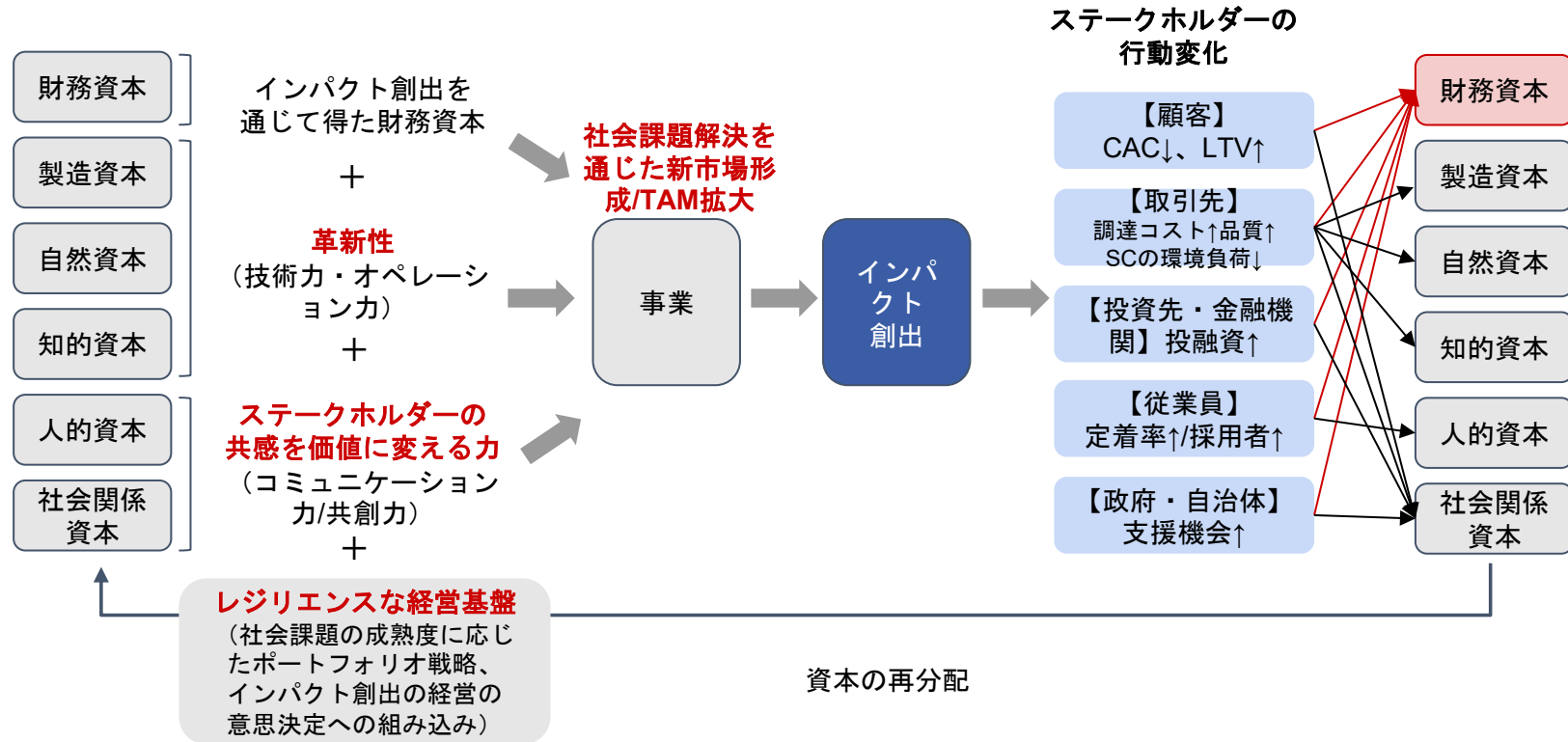
インパクトを軸に企業価値向上を実現するための4要素

4

レジリエンスな経営基盤

- **社会課題の成熟度や外部環境の変化に応じた収益性・成長性のある事業ポートフォリオ戦略が仕組み化されている**
- インパクト創出に関する重要な議論テーマが経営に関わる重要な会議（経営会議や取締役会など）で定期的に議論され、**経営の意思決定に組み込まれている**
- **自社のポジティブインパクト創出のために重要なサステナビリティ要件を特定し、継続的な取り組みを実施することで、事業存続の蓋然性を高めている**

4要素と企業価値の接続仮説



企業様の取り組み紹介

株式会社レゾナック・ホールディングス



たかはし ひで
ひと高橋
秀仁

プロフィール

1986年	三菱銀行入社 日本橋支店配属
1998年	Knox&Co（米国コネチカット州）出向
2001年	東京三菱銀行財務開発部
2002年	GE Japan 事業開発部 マネージャー
2008年	モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン シリコン事業社長兼CEO
2013年	GKNドライブラインジャパン 代表取締役社長
2015年	昭和電工株式会社入社 戦略企画部管掌
2022年	昭和電工株式会社 代表取締役社長・CEO
2023年	レゾナック・ホールディングス 代表取締役社長・CEO

座右の銘

「変革せよ。変革を迫られる前に」（ジャック・ウェルチ）

趣味

スポーツ観戦

今年の目標

1,500キロカロリー/週の運動をジムですること

好きな食べ物

イタリアン&ワイン

昭和電工



石油化学



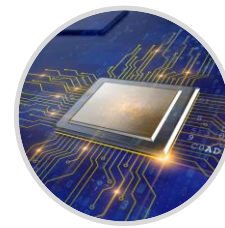
化学品



黒鉛電極

大手総合化学メーカー

日立化成



半導体・電子材料



EV関連材料

半導体などの成長事業

総合化学から **スペシャリティケミカル** へ

「日本発・世界トップクラスの機能性化学メーカー」

世界で戦える会社

ワールドクラスの事業競争力と
収益力

**持続可能なグローバル社会に貢献する
会社**

イノベーション力と事業開発力

**国内の製造業を代表する共創型人材創出企
業**

Resonate

共鳴する・響き渡る



Chemistry =

RESONAC

Chemistry for Change

社会へのインパクト
を起点に企業価値
向上を目指す

つながり、
創型化学会

Purpose

存在意義

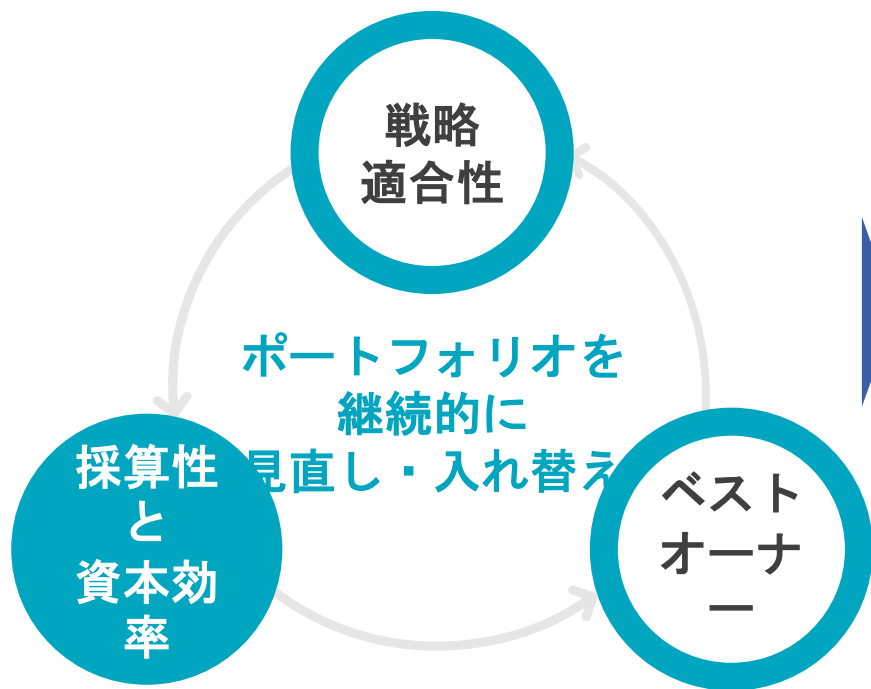
私たちが大切にしている価値観

化学の力で社会を変える

先端材料パートナーとして時代が求める機能を創出し、
グローバル社会の持続可能な発展に貢献する

- ▶ プロフェッショナルとしての成果へのこだわり
- ▶ 機敏超を柔軟性ブンマインド
- ▶ 未来への先見性と高い倫理観

戦略的な選択と集中で資本効率を向上 成長基盤をさらに強化



2021

- ・ 昭光通商(商社：化学品などの販売)
- ・ アルミ缶事業
- ・ 食品包装用ラップフィルム事業
- ・ アルミ圧延品事業
- ・ プリント配線板事業
- ・ 蓄電デバイス・システム事業

17の事業
売却

2022

- ・ セラミック事業
- ・ ISOLITE(自動車等の断熱部品事業)

2023

- ・ 診断薬事業

2024

- ・ 再生医療事業
- ・ 表面保護用フィルム事業
- ・ レゾナック・パッケージング(食品等の包装材料事業)
- ・ エンエス昭和(排ガス処理事業)

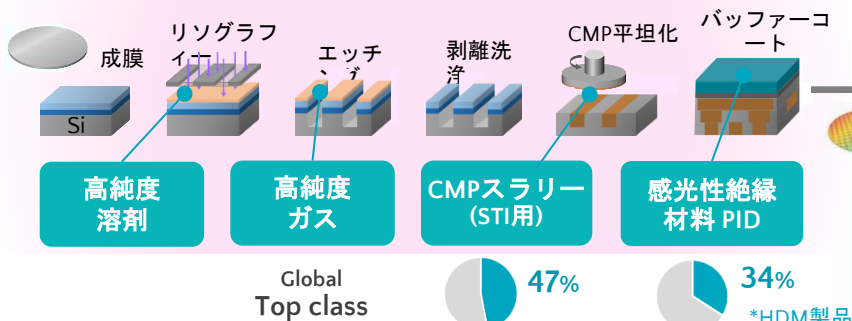
2025

- ・ 中国 樹脂成形品事業
- ・ F2 Chemicals
- ・ Fiamm Energy Technology

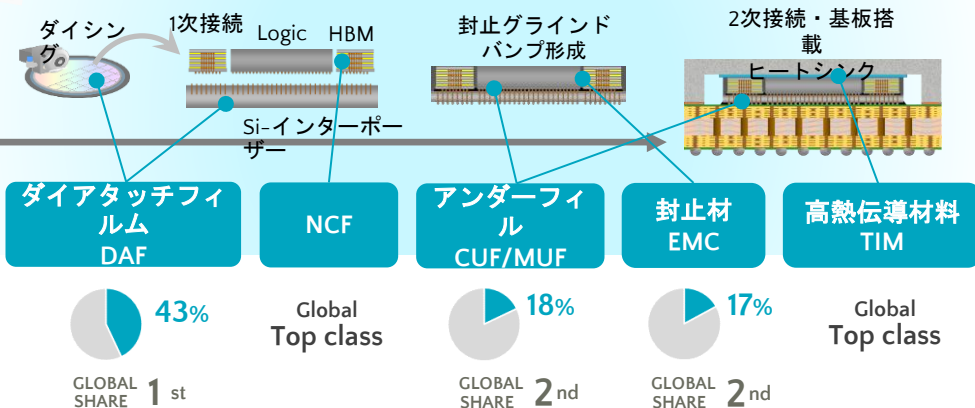
2026~

- ・ 自動車成形部材事業
- ・ クラスケミカル(石油化学事業)の
パーシャルスピンオフ(予定)

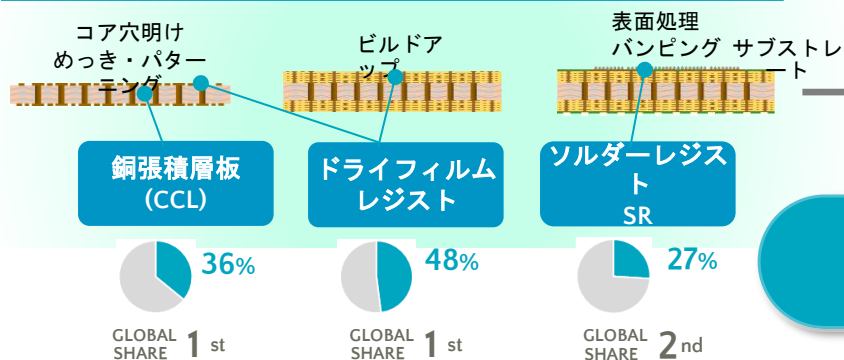
前工程 (ウェハプロセス)



後工程 (パッケージング)



パッケージ基板製造



グローバルトップクラス
半導体材料サプライヤー

*HDM: HD Microsystems
レゾナックとQnityのジョイントベンチャー

*富士経済「2024年 半導体材料市場の現状と将来展望」 CMPスラリー(STI用) 2023年実績(金額)、感光性絶縁材料: バッファコート材料/再配線材料 2023年実績(数量) 但しグループ会社 HDマイクロシステムズ製品、ダイアタッチフィルム 2023年実績(数量)

*富士カメラ総研「2024 エレクトロニクス実装ニューマテリアル便覧」 ガラス基材銅張積層板(パッケージ向け) 2023年実績(金額)、ソルダーレジストフィルム 2023年実績(金額)、封止材 2023年実績(数量・金額) © 2023 富士通株式会社 All Rights Reserved. 30



戦略
(ポートフォリオ
改革)



個の能力



組織文化

企業価値

戦略・ポートフォリオ



コモディティ化

差別化要因



やりきれぬ人材

総合型化学メーカーから、「機能性化学メーカー」 へ



つまり



共創型人材

レゾナックの人的資本経営

自律と多様性のマネジメント



「聞いてみよ
う」と
思うになっ
た

タウンホールミーティング/ラウンドテーブル

世界の拠点を経営陣みづから訪問・直接対話
(タウンホール61回 / ラウンドテーブル 110回)



自分で講座選択・
交流できた

ラーニングフェス (2025~)

自律と共創の学びフェス
(実践型ラーニングイベン



言っちゃって
いいんだ!

モヤモヤ会議 (2022, 2023)

CEO・CHRO主催ワークショ
ップ
(施設・864名参加)



自分が何を大事に
しているか分かっ
た

パーパス探求カフェ (2024)

パーパスの自分ごと化と
それによる自律を目的に実施



活動を通じ、新た
な
共創が生まれた

グローバルアワード

AHA!

バリュー実践を共有して
共創と共感をつくり出すプロ
グラム



なぜなぜマーケット、
宇宙材料PJなど誕生

REBLUC

(Resonac Blue Creators)

「パーパス」から生じるありたい姿の具現

©Resonac Holding Corporation All Rights Reserved. 34

Resonac Pride 製品・サービス とは??

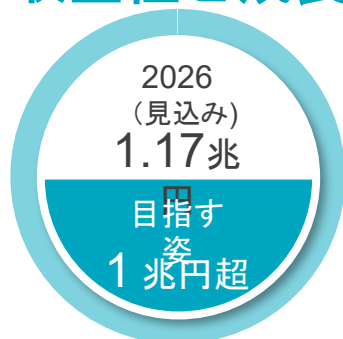
“社会を変える”当社の製品・サービス

- ✓ Resonac Pride製品・サービスの認定を通じて、環境や社会に与えるインパクトを可視化し、経済価値への転換を目指す
- ✓ パーパス実現にプライドを持って挑戦し続ける人材育成・文化醸成にもつなげる
- ✓ 25年に全事業部門で1つずつ認定、今年も継続中



選択と集中による構造改革の道筋を確立

収益性と成長力を両立する事業構造を、戦略と実行で推進



売上

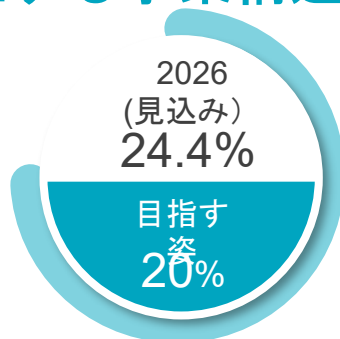
主要戦略

グローバル水準の収益基盤の確立

ポートフォリオ経営の高度化

イノベーション
(技術×ビジネスモデル)

プラットフォーム



EBITDAマージン

SAY&DO

①半導体成長分野への
積極投資

②共創型イノベーション
創出加速

③カルチャー変革
& 人材開発



PBR

成果

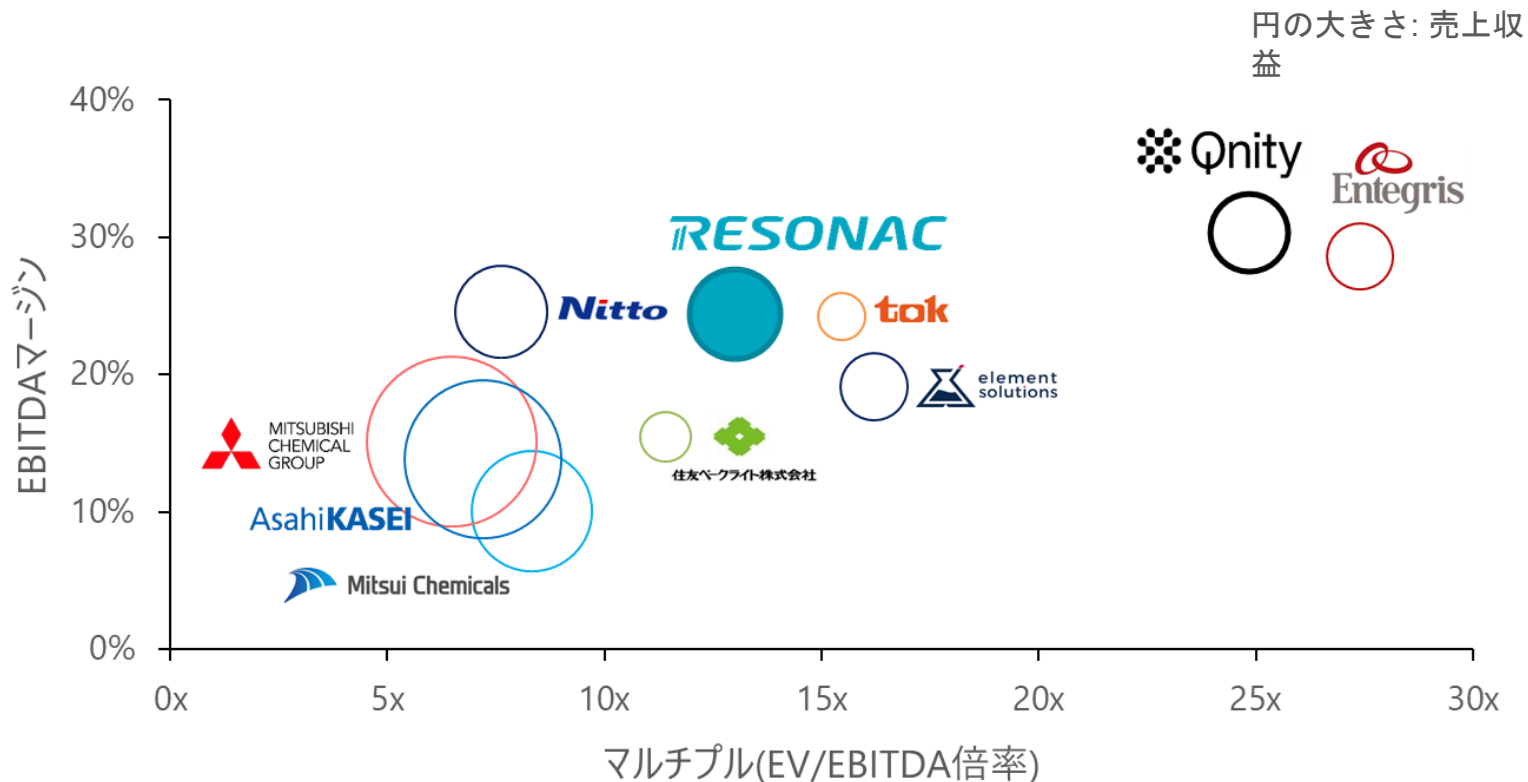
半導体事業への集中投資
収益性と効率向上

不採算事業撤退と再編
効率改善

共創型開発で収益性向上
差別化開発強化

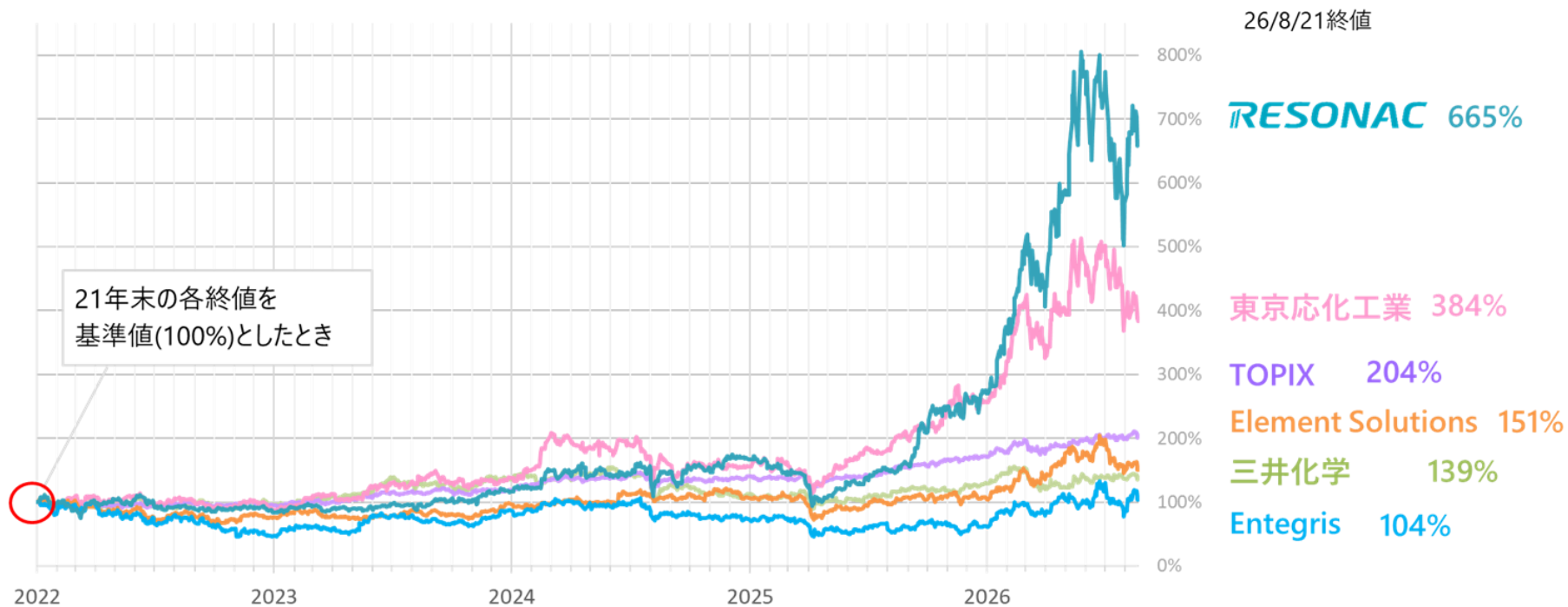
①チーム経営確立
②パーパス・バリュー浸透

構造改革基盤
確立



当社調べ。業績は会社予想(当期)、会社予想の公表がない場合は、Factsetコンセンサス値を使用。

EVIは2026年8月現在。海外企業は原則として期中見込みレートを用いて換算。



- 志 . . . パーパス
- 価値判断 . . . バリュー
- イノベーション . . . 共創（心理的安全性と多様性）



働いていて楽しい会社にする



株式会社カチタス プレゼン資料



カチタスは日本に数多く存在する「**空き家**」を再生することを通じて
地方で雇用を創出し「**地域を活性化**」しつつ
お客様には「**新築の半額程度**」の価格でより良い住まい方を提供する会社です



パーパス

この街に、 ひとつでも多くの喜びを。

私たちは、中古再生住宅のパイオニアとしての誇りと責任をもって、
中古住宅業界を先導し、
「無駄なく家を住み繋ぎ、地域を大事にする」住まい方ができるよう、
住宅市場を変えていく。

お客様からは「カチタスに売ってよかった」「カチタスで買ってよかった」と
最高の笑顔をいただき、

お取引先とは「カチタスとずっと付き合いたい」と深い絆でつながり、
従業員一人ひとりがカチタスの一員であることを誇りに思う会社にしていく。

そのために、昨年よりも、昨年よりも、昨日よりも一棟でも多くのいい仕入れをし、
一棟でも多くのいい商品を企画し、一棟でも多くの販売をしていくことで、
ひとつでも多くの幸せな暮らしを支援していく。



ビジネスモデル

仕入れて、 リフォームして、 販売する シンプルな ビジネスモデル

01 仕入

仕入れ力・目利き力により再生可能な物件を厳選買取



02 再生・商品化

リフォーム企画力・施工力により
きれいな物件を低コストで企画・施工



03 販売

販売価格は新築の半額程度で、
お客様の毎月の住宅ローン支払い額は賃貸物件の家賃以下

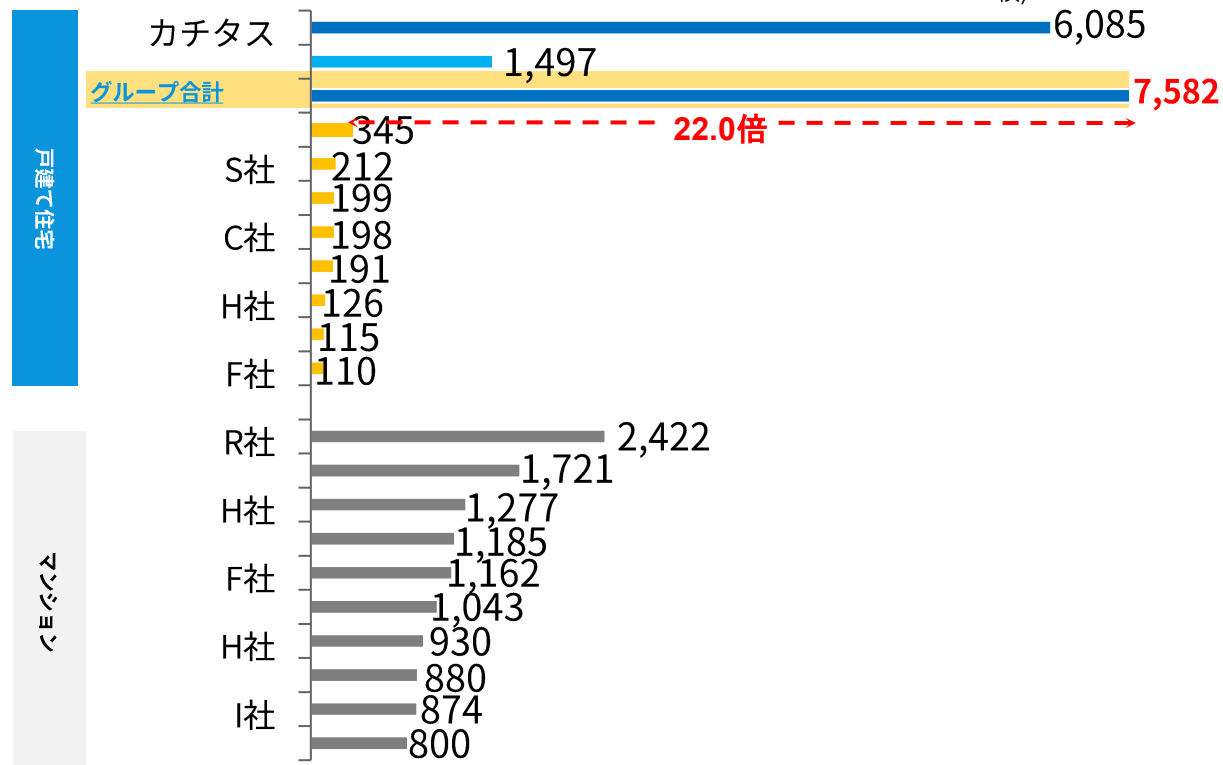


業界内でのポジショニング

戸建て買取再販で
販売件数No.1、
創出する
インパクトも
No.1

中古住宅買取再販事業に関する販売戸数ランキング

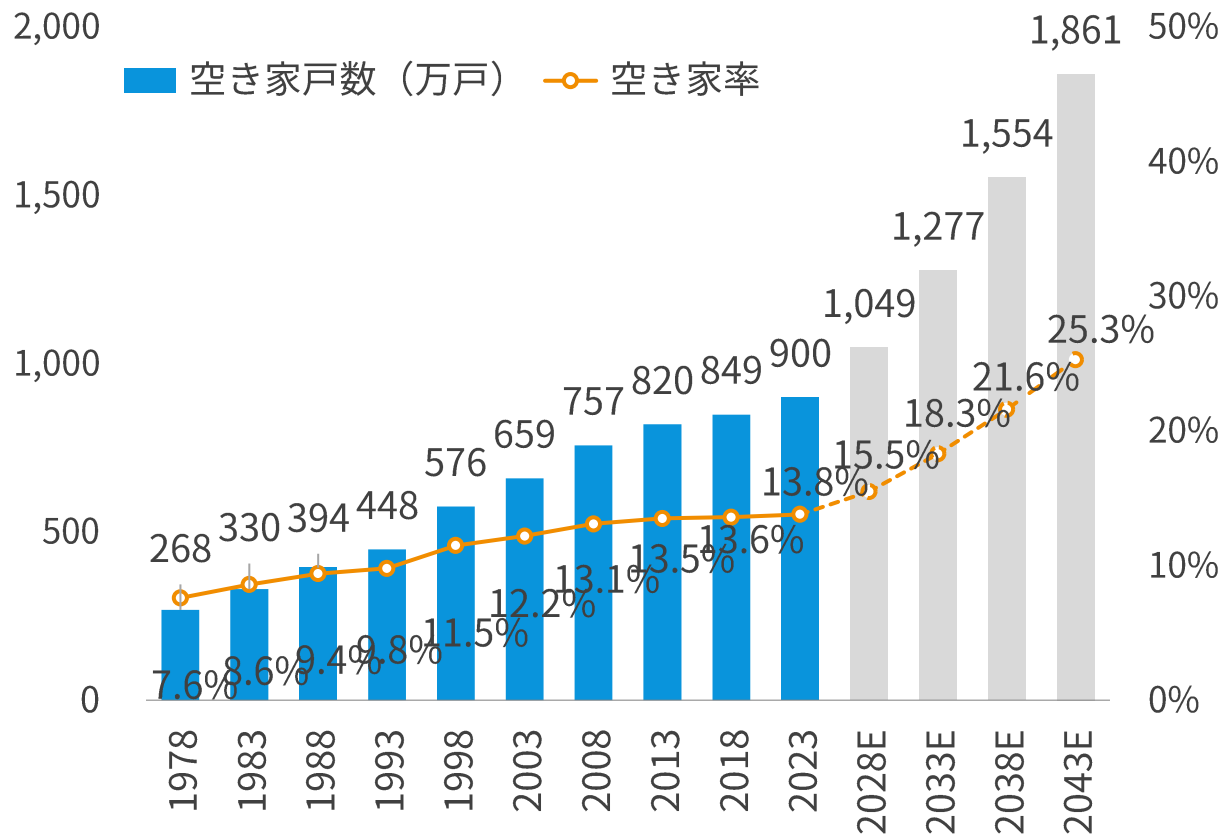
(2026年3月期実績)



カチタスが取り組む社会課題
①空き家問題

7戸に1戸が空き家。
放置されている
資産を、
住まいに変える

増え続ける空き家



カチタスが取り組む社会課題
①空き家問題

仕入れる物件の内

約7割が空き家。

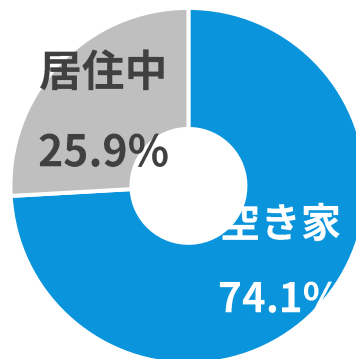
1件の再生が、

1,960万円の

経済価値と

5.9人の受益を生む

仕入れ物件の約7割にあたる、
年間5,500件以上の空き家を仕入れ



今ある資源・資産の循環による
インパクトの創出

1物件再生する経済的インパクト

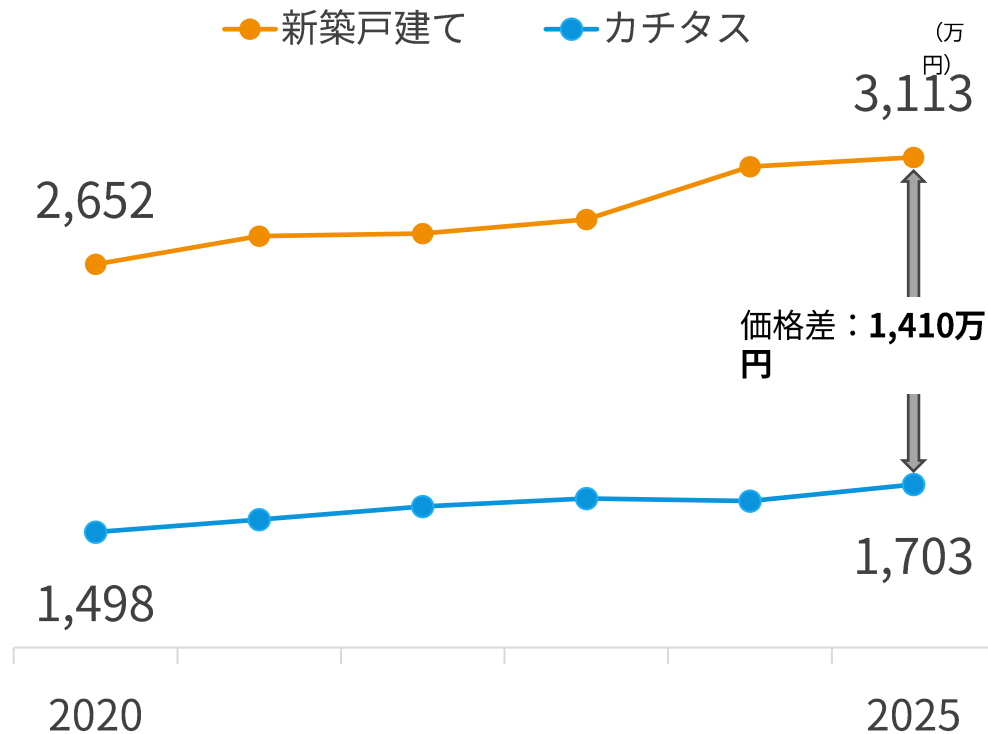
1,960万円

1物件の再生による受益者数

5.9人

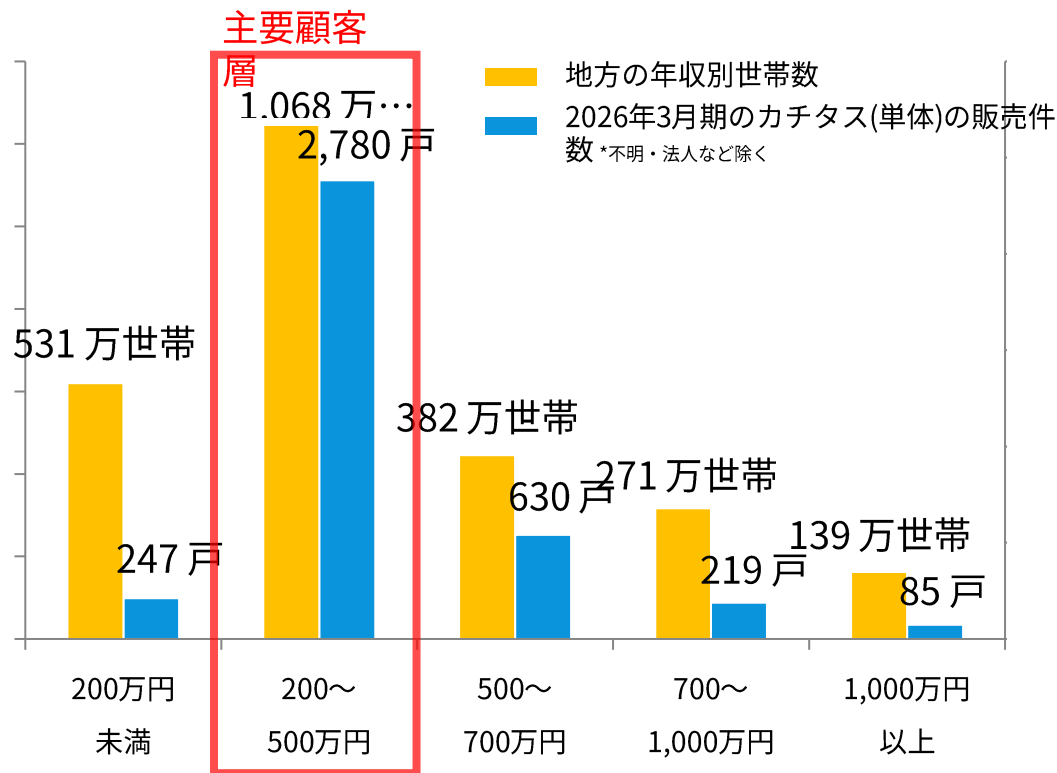
新築戸建ては5年で
461万円上昇。
価格が高騰するなか
アフォーダブル住宅
を提供

住宅価格の推移（地方エリア）



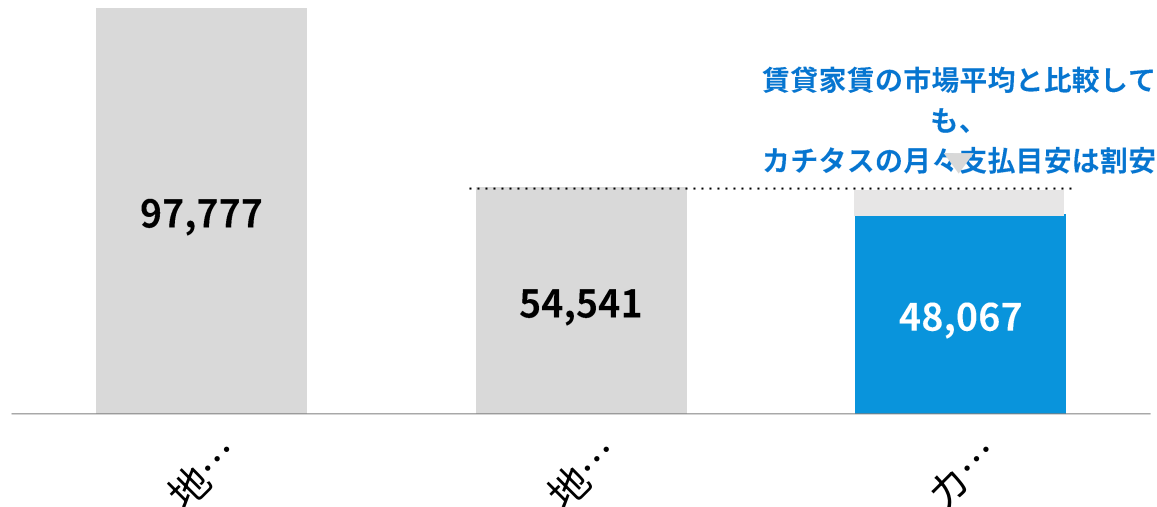
主要顧客層は、
地方在住の
年収200～500万円
の世帯

顧客の年収層とマクロ環境



新築の約半額、
賃貸よりも少ない
月々の支払いの負担

月々の支払い額の負担



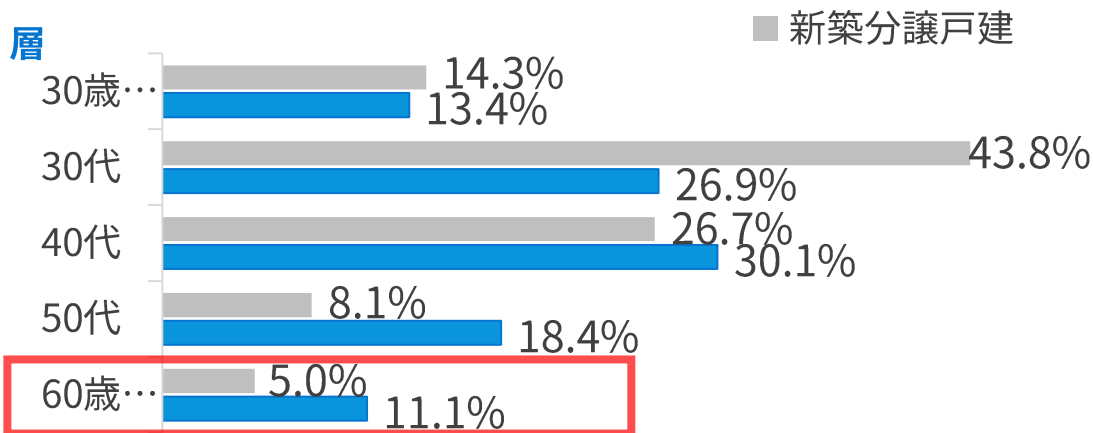
ひとり親世帯や
高齢者層など、
多様な層に
住宅取得の機会を
提供

多様なライフスタイルに答える住まいを提供

ご購入者様の世帯構成

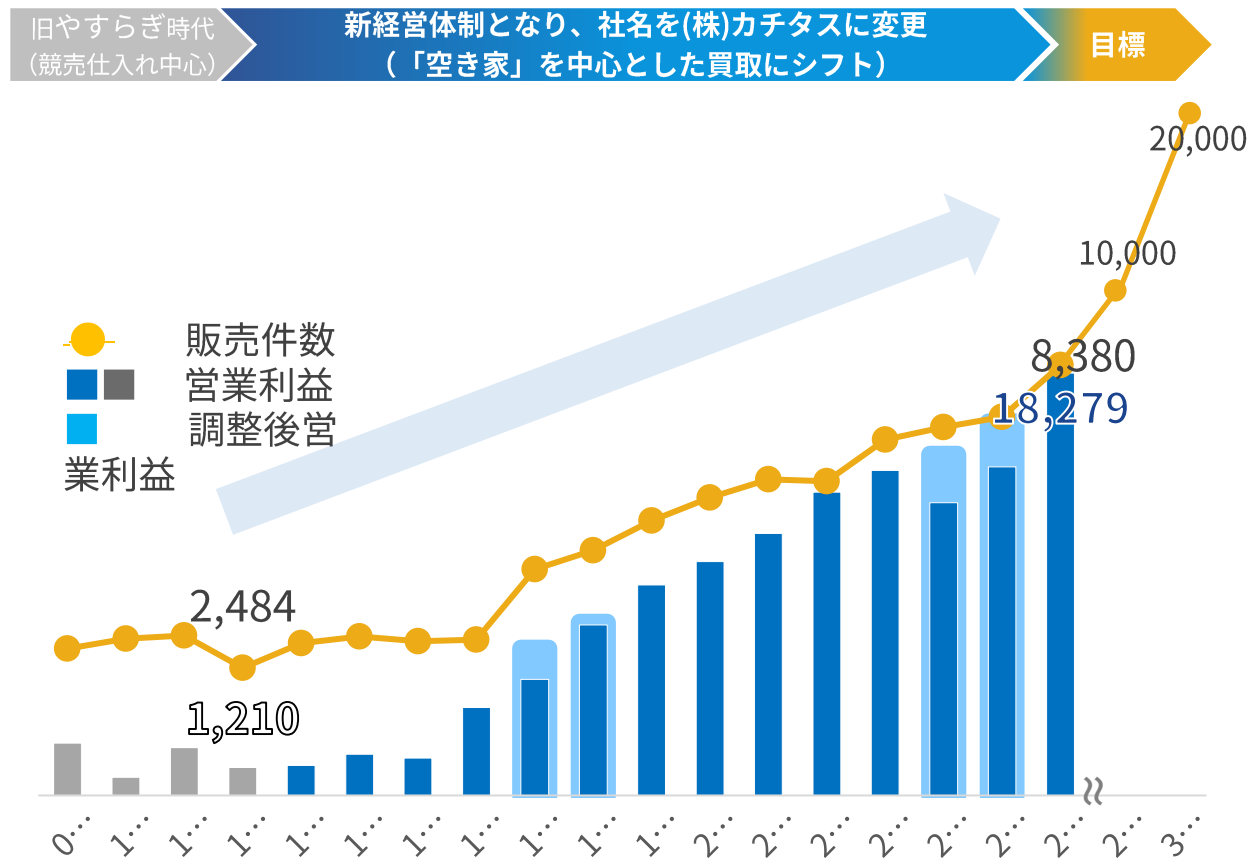
夫婦のみ	夫婦と子ども	ひとり親と子ども	三世帯同居	単身	その他
24.2%	39.3%	14.8%	4.9%	11.8%	5.0%

ご購入者様の年齢層



新経営体制で
営業利益はV字回復。
2028年には、
年間販売件数
10,000件を目指す

営業利益の推移



ステークホルダー

期待通りではなく、
期待を超えて、
商品、サービス、
満足を提供する

期待を超える価値を。関わる全ての人に。

ご購入いただくお客様

顕在ニーズと潜在ニーズを満たし
住み続けてからも
安心な住宅を提供する

ご売却いただくお客様

他社とは違う視点で住宅の価値を見出し
早い対応で手離れがよく、
安心できる 買い取りを実現する

株主の皆様

事業活動を通じて
社会貢献と収益を両立し
安定的な成長を実現することで
投資いただいた期待に応える



仲介会社様

互いの強みを活かすことで
買い取りも販売も補完しあえる
パートナーとなる

従業員

仕入れから販売まで一気通貫した
仕事を通じ、意欲と実績と能力に応じ
て
成長できる環境を提供する

施工会社様

頻度と精度の高い発注を通じて
経営を安定させ、互いによい
仕事をするためのパートナーとなる

社会課題の解決と企業成長を両立する、 価値創造の好循環

ビジネスモデル

当社に係る社会課題

空き家問題



地域の過疎化と
地域経済の空洞化



住宅価格の高騰



スクラップ
& ビルドによる
環境負荷の増加



インプット

知的資本
再生実績に基づくノウハウ
累計**10万件***

人的資本
仕事にやりがいをもって働く
営業員**839名***

社会・関係資本
地域**工務店**ネットワーク
1,414社

財務資本
安定した財務基盤
在庫投資額**812億円***

自然資本
スクラップ&ビルドの新築
住宅に比べ、環境に優しい
再生住宅



中期経
営計画

マテリ
アリテ
ィ

ガバナンス

アウトプット

中古住宅仕入件数
9,804件*

地元で働きたい
新卒採用**186名***

工務店への発注金額
18,450百万円

耐震基準適合物件数
5,691件

住宅販売件数
8,380件*

Scope1,2,3排出量*
943,448t-CO₂

アウトカム

知的資本

成功・失敗ナレッジの
更なる増加

人的資本

地方での採用力向上による新
卒採用数の増加

社会・関係資本

地域のステークホルダーとの
信頼関係の強化

財務資本

安定的な営業キャッシュフ
ローの創出

自然資本

解体の廃棄物・廃材の削減

パーパス

この街に、ひとつでも多くの喜びを。

Allegro MicroSystems,inc.

Impact-Driven Corporate Value Enhancement Alliance Working Group (ICEA) Session
インパクト志向企業価値向上アライアンス分科会（ICEA）企画セッション

Does Impact Drive Corporate Value?
インパクトは企業価値を高めるのか
the ICEA Working Group's Four-Factor Hypothesis
ICEA分科会の4要素仮説を議論する

2026年9月3日（木） 15:30～

Allegro Microsystems Inc.

Director, Honorary Chairman of the Board
取締役、名誉取締役会長

Yoshihiro Suzuki
鈴木善博

Allegro at a Glance

アレグロ社の

概要
Leading the World Toward a Safer, More Sustainable and Autonomous Future.

SENSING AND POWER SEMICONDUCTOR SOLUTIONS



1. Source: Omdia, MEMS & Sensors Competitive Analysis Database, May 2026.
2. Based on sales as a percent of total trailing twelve months, FQ4 FY25- FQ3 FY26.

1. Source: Omdia, MEMS & Sensors Competitive Analysis Database, May 2026.
2. Based on sales as a percent of total trailing twelve months, FQ4 FY25- FQ3 FY26.

NASDAQ Listed as ALGM since 2020, MKT CAP \$12.97B on June 30, 2026
2020年からALGMとしてNASDAQに上場、2026年6月30日時点の時価総額は129.7億

>30 years

Automotive experience

電装市場で30年以上

~15,000

Customers

顧客 15,000社



Magnetic sensing market leader¹

磁気センサー 世界一位

Sales by Product²



61% Magnetic sensing
39% Power IC solutions

~4,250

Employees

全従業員 4,250人

>25B

Cumulative units shipped

累積出荷 250億個以上

27

Locations

事業所 27箇所

\$890M

FY26 sales

F26 売上 1400億円

Enterprise Value History (企業価値、時価総額のあゆみ)

1990	\$ 0.08B	Acquired by Sanken Electric (Japan)
2017	\$ 1.03B	Private Equity Investment
2020	\$ 3.50B	NASDAQ IPO Oct.29

Value creation maintaining the highest standards of ethics and compliance.
最高水準の倫理観とコンプライアンスを土台に、持続的な価値を創造

Highlights from our 2026 ESG Report

ESG Goals and Achievements

2026年ESGレポートのハイライト

FY30 Goals F30目標	FY26 Achievements 達成
95% 固体廃棄減 Waste diverted from landfill at all facilities with operational control	94% Solid waste diverted from landfills at manufacturing facility
50% Scope1,2 排出減 Reduction in Scope 1 and 2 emissions normalized based on revenue from our FY18 base year	~86% Reduction in Scope 1 and 2 emissions intensity compared to FY18 base year
50% 再エネ使用率 Renewable energy at manufacturing facilities	92% Renewable energy at Philippine manufacturing facility through contract with our utility provider
50% 水再利用率 Water reduction goal for headquarters irrigation by FY30 (from FY21)	46% Average annual reduction with over 3.1 million cumulative gallons saved since FY21

ESG and Impact are becoming the entry ticket to building a stronger reputation in the capital markets.

ESGやインパクトは市場においてより強固な評価のための「入場券」

FY26 SUSTAINABILITY AWARDS, ESG RATINGS & MEMBERSHIPS

サステナビリティアワード、ESG認証

加盟団体



Click to learn more



ISS ESG Prime



CDP Discloser 2025



Responsible Business Alliance
Advancing Sustainability Globally



Sustainable Leading Enterprise Award
Shenzhen International Electronics Exhibition and ElecFans
For continuous innovation in green energy technology and sustainability practices



Certificate of Appreciation
Semiconductor and Electronic Industries in the Philippines (SEIPI)
For supporting SEIPI's CSR initiatives by providing aid to victims of the 2026 Cebu earthquake and typhoon

Our Products 我々の製品

In 2025, Allegro introduced industry-leading, highest-bandwidth magnetic current sensors, followed in early 2026 by next generation devices, setting a new standard for efficiency in high-power systems. Increased bandwidth enables faster detection of current spikes in high-voltage power conversion systems, enhancing protection of critical electronics and improving overall system reliability. The higher power density is achieved through reduced energy loss and smaller form factors compared to traditional shunt-based current sensing, supporting more efficient and space-optimized power conversion.

Additionally, the use of our high voltage gate drivers saves space, improves efficiency and delivers double the power density in power systems across electric vehicle powertrain, cloud infrastructure and energy infrastructure applications.

高効率な電力制御技術により、EV、AIデータセンター、エネルギーインフラ省エネ化・高性能化を支えることが当社の社会的インパクト

Avoided metric tons of CO₂e

› Saves ~12 gal of gas per vehicle each year

25 Million

› Improves vehicle fuel economy by ~5%

estimated from 2021-2025¹

› Improves energy efficiency and lowers emissions

25百万トン 2021-2025で見込まれるCO₂e排出量削減

Estimated CO₂e Emissions Avoided by Use of Allegro Products

MILLIONS OF TONS



01

Stop/Start systems in combustion engine and Hybrid electric vehicles

Allegro developed the first speed and direction crank sensors for stop/start engine control, improving vehicle fuel economy by ~5%.

02

Anti-Lock and Advanced Braking Systems

Sensor and Power ICs provide precise measurements under extreme operating conditions for the optimal performance of braking and traction control systems.

03

Electric Power Steering (EPS) Systems

Up to 15 Allegro ICs per car in typical EPS systems, saving ~12 gallons of gas per vehicle per year compared to always on hydraulic steering systems.

04

Onboard Chargers and Inverters in xEV Powertrain

By reducing electrical losses and boosting power density in advanced Silicon Carbide (SiC) and Gallium Nitride (GaN) power systems, Allegro's current sensors and high voltage gate driver solutions improve energy efficiency and lower emissions, yielding ~36 more miles per EV per year.

05

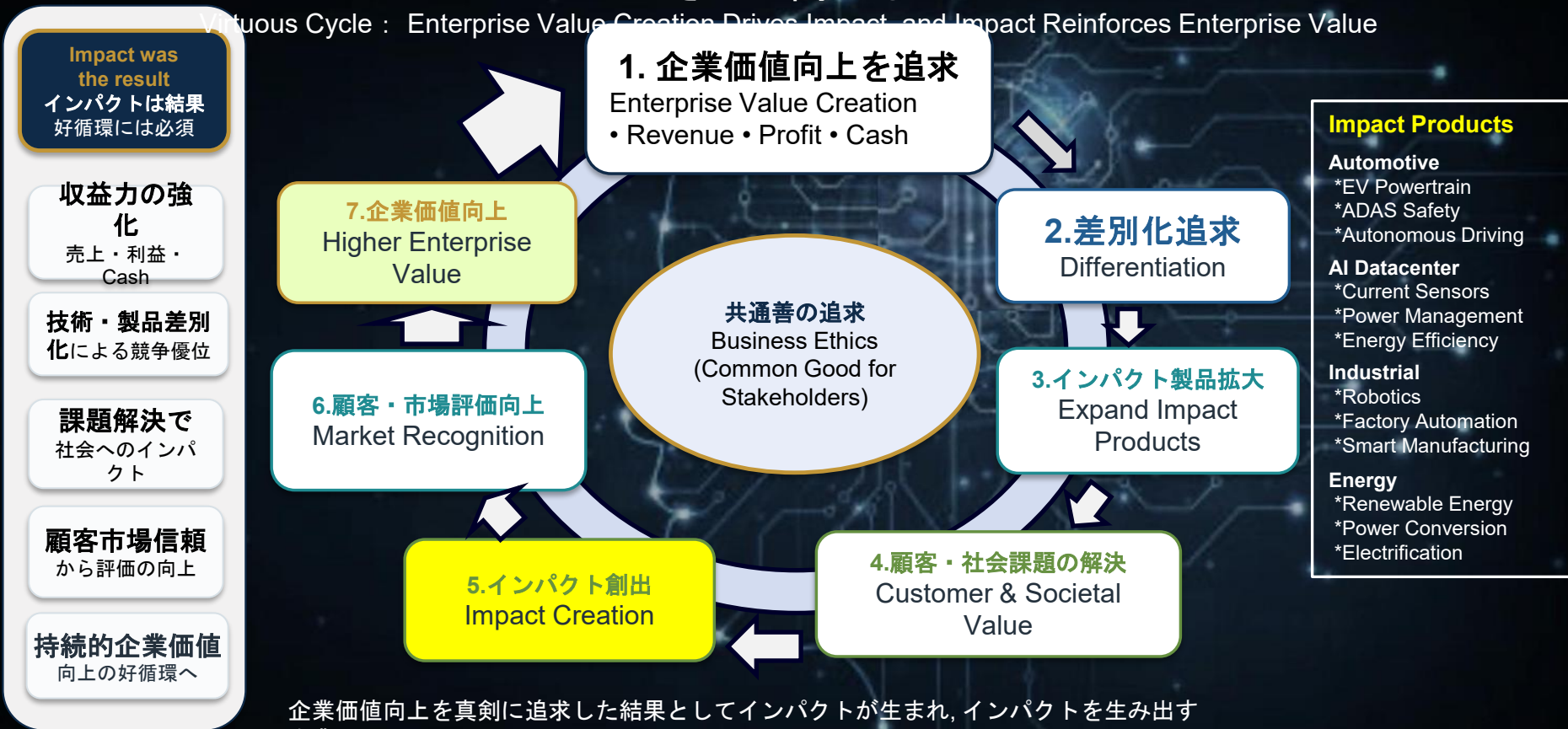
Prevention of Loss-of-Assist in Electric Power Steering Systems

Integrated angle, current and torque sensors combined with motor drivers and safety power management devices ensure continuous steering assist, preventing system failures that would compromise vehicle handling while optimizing energy efficiency.

¹ Estimated avoided emissions based on vehicles sold with Allegro products and U.S. Department of Energy data for emissions produced/reduced. Sources included: U.S. Department of Energy Alternative Fuels Data Center; Emissions from Electric Vehicles (energy.gov); Cost and Effectiveness Estimates of Technologies Used to Reduce Light-duty Vehicle Carbon Dioxide Emissions, and market data provided by Strategy Analytics Powered by Technisights.

好循環：企業価値の創出がインパクトを生み出し、そのインパクトが企業価値をさらに高める

Virtuous Cycle: Enterprise Value Creation Drives Impact, and Impact Reinforces Enterprise Value



企業価値向上を真剣に追求した結果としてインパクトが生まれ、インパクトを生み出す企業

Allegro is not an "Impact Company". Allegro is a Company that Creates Impact.

Business Ethics が駆動する 企業価値創造の好循環



ありがとうございました

Thank you.